

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

2022. No.382 **5**  
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています



## Contents

沖縄／白い家フェローシップチャーチから募金 P. 2

続報!ウクライナ難民緊急支援 P.3-5



ポーランドに派遣した  
近藤・浅野スタッフが  
現地の状況を報告

チャイルド・サポーター  
ポリビア/家族のストーリー P. 6

支援者の取り組み  
コシブレザービングが自販機設置で SDGs P. 7

写真：ウクライナと接するポーランド・メディカ国境  
検問所には今も続々と難民が到着

2021年12月5日、沖縄県読谷村にある「白い家フェローシップチャーチ(伊藤嘉子牧師)」によるクリスマスチャリティーイベントが、沖縄コンベンションセンター展示棟で開催されました。このイベントには5,000人以上の参加があり、チケット(リストバンド)大人2,000円、子ども1,000円の売上げ(870万円)は全て各支援団体に寄付されました。



伊藤牧師(中央) ①募金贈呈式、左から二人目に近藤スタッフ



## 白い家フェローシップチャーチ クリスマスチャリティー開催でハンガーゼロを応援

2022年3月1日、白い家フェローシップチャーチにて募金贈呈式が行われ、日本赤十字社、読谷村(こどもみらい基金)、インドのYWAM(映像で紹介)、そしてハンガーゼロもお招きをうけ、ハンガーゼロは200万円の寄付金を頂きました。エチオピアのエイズ孤児等への活動のために使わせて頂く予定です。

伊藤牧師は、43年前にトータルビューティーの美容家として静岡から沖縄にきて、困っている人々や悩みのある人々、親のない子どもたちに寄り添いながら美容室経営、講演活動、国内外における救済活動をしてられました。クリスマスには生活に困窮する人々のためにチャリティー



ユースチームのヒップホップダンス

イベントを開催し、その収益金をさまざまな団体や時には震災等、必要としている所に寄付をしてられました。

この1、2年間はコロナの影響で日本でも厳しい状況の方が多く、最も影響を受けるのは海外の、すでに貧困の中にある人々であるということに心を痛めて、多くのイベントが中止となるコロナ禍の中で感染対策をしながら5,000人のチャリティーイベントを計画されたのです。

当日会場の正面に設置されたステージでは、次々とダンスやゴスペルが披露されました。またリースやトールペイント、手作りの小物、クラフト、陶器、バッグ、アクセサリーやリサイクルの服の販売、飲み物や食べ物(カレーやチャーハン、弁当等々)のブースが多数出店して賑わいました。ハンガーゼロは、動画の上映やパンフレット等の配布、ステージでの田村スタッフの飢餓の状況説明とご挨拶をさせて頂きました。

伊藤牧師がはじめられた小さな一歩、公民館からスタートしたクリスマスチャリティーイベントは、それを支えてられた多くの方々の愛と祈りによって大規模なイベントに成長し、さらに多くの人々に愛と励ましを伝えるものとなっています。(報告: 沖縄事務所太田スタッフ)

### コロナ感染から守る「緊急救援募金」に応援をお願いします

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。  
ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右QRコードから  
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記  
募金集計: 2022年4月17日現在で約1,329万円、皆さまの応援を心より感謝いたします。



スマホから募金ページに

# 続報!ウクライナ難民緊急支援

報告:緊急支援チーム近藤高史

2月24日のロシア侵攻以来、ウクライナから国外に逃れた難民は、すでに500万人(4月15日現在 UNHCR 発表)を越え、その約半数をポーランドが受け入れています。3月21日から4月6日までの2週間、ハンガーゼロは3名のスタッフ(近藤高史、ジェロム・カセバ、シン・オクチョル)をポーランドに派遣。国外に逃れてきた難民の方々の避難状況や国際飢餓対策機構やソルナム親善大使らの活動、様々な支援団体との情報交換や協力構築などを精力的に進めました。またその後、月井サムエルさん(ボランティア)やハンガーゼロの浅野陽子スタッフも現地入りして緊急支援活動と今後の支援活動のための情報収集も続けました。(※報告はホームページで速報したも含みます)



## ◆ ルブリンの二次避難所を訪問

ワルシャワから電車で南へ2時間、ウクライナ国境に近いポーランド東部に位置するルブリンでは、ハンガーゼロの協力団体である韓国国際飢餓対策機構(KFHI)が、3月初めより二次避難所(注:国境近辺で難民を短期間、大規模に受け入れる一次避難所に対し、中長期に落ち着いて避難生活を送れる小規模の避難所を指す)を開設して6家族約20人の難民を受け入れています。

18才から60才までの男性は兵役に就くため国内に留まらねばならず、国外に逃れられるのは、母親と子ども、高齢者です。若いお母さんによると、ウクライナに残っている夫と携帯で連絡を取るが電話が通じないだけで不安になる。故郷に早く戻りたいが戦闘で傷ついた町の再建を考えると、子どもたちの将来のためにはこのままポーランドや外国に移り住んだ方が良いのではと、心が揺れ動いているとのことでした。

KFHIが肉や野菜などの食料を持参し、私たちは子どもたちとサッカーやバスケット、シャボン玉などでしばらく遊び、持参したパンの缶詰を手渡しました。パンが甘くて柔らかく、味が何種類もあることに驚いていました。

翌日はルブリン市内でもう一ヶ所、40~50名宿泊が可能な避難所として新たに借りる建物を見学しました。ハンガーゼロも今後、日本からこの避難所の活動を支援

していく約束をしました。

## ◆ 国境検問所 メディカ

ルブリンから車で南東へ3時間。ウクライナとの国境検問所があるメディカに到着。メディカは難民が脱出を始めてからヨーロッパ中から支援団体やボランティアが押し寄せ、一帯はテント村のようになっていました。難民の家族が国境を越えてくると、衣類や食料など必要なものを受け取り、用意されたバスで数日宿泊が可能なプシェミシルの一次避難所へと向かいます。多くのボランティアが荷物を運ぶのを手伝ったり、病気や困っていることはないか尋ねたりしていました。(※会話は英語よりウクライナ語かロシア語)

## ◆ プシェミシル、コルチョバの一次避難所

国境を越えた難民が最初に過ごすのが、巨大なショッピングセンターを改造したプシェミシル人道支援センターです。ボランティア登録を済ませ中に入ると、1,000名位の方が避難していました。簡易ベットを敷き詰めたような状況で、ペットも連れて避難している方も多く、衛生状況は決して



て良くはなさそうでした。医療関係のボランティア団体から、コロナはもちろん、シラミなどの感染、食中毒の注意など管理が大切であると聞きました。私たちもシーツ交換、床清掃などのボランティアをしました。

メディカから北へ車で30分ほど行ったコルチョバにも検問所があり、500人規模の避難所ができていました。私たちは「ワールド・セントラル・キッチン」という団体に協力し、食材を用意したり、食器や鍋を洗わせてもらいました。難民の方とは言葉が通じず、お話を聞くことができなかったのが残念でしたが、子どもたちとは一緒に遊ぶことができました。



## 物資支援で新たなパートナーと協力



### ◆ ジェシエフの GEM 物資倉庫

プシェミシルから車で1時間ほどのジェシエフ市に GEM (グローバル・エンパワーメント・ミッション) という国際的な支援団体が持つ巨大倉庫があり、ハンガーゼロの親善大使であるフルート奏者のソン・ソルナムさんが3月初めより単身ポーランドに入り、GEMから物資の提供を受けてウクライナ国内に持ち込む活動をしておられました。

ソルナム親善大使の紹介で、今後日本の企業や団体から提供された物資は、この倉庫を利用して頂いてウクライナへ送ることができることになりました。早速、パン・アキモトよりパンの缶詰 100ケース (2400食分)や、中京医薬品から医療品セットの申し出を頂き、これらを GEM倉庫に送る予定です。またウクライナ国内に多数の活動拠点が



ハンガーゼロは大量の食料品を現地で調達し、GEMの倉庫に提供。早速ウクライナ国内に届けられました。

ある YWAM (ユース・ウィズ・ア・ミッション) とも協力し、ウクライナへの物資支援の流れを作っていきたいと願っています。日本で捧げられた募金を用いて、ポーランド国内で食品や日用品などを調達し、GEMを通してウクライナ国内へ持込むことも計画していきます。

### ◆ オデーサ教会の船越宣教師ご夫妻との出会い

ウクライナ国内で20数年働いてこられた船越宣教師ご夫妻が、教会員と共にハンガリー国境近くの村へ避難し



ソルナムさんは、GEM 倉庫の物資を自ら運転する車に積み込みウクライナ人と一緒にウクライナに届ける活動もしています。

ておられ、この日はポーランドでお会いできました。お二人ともロシア語が堪能なため、難民の方の話に耳を傾けておら



れました。最初は笑顔の難民のお母さんもやがては涙で船越夫人の肩を抱いている姿に感動しました。心のケア、傾聴ボランティアの働きは、悲劇をくぐり抜けてきた難民の方々にとって特に必要であることを教えられました。

※心のケアについては、右頁の浅野スタッフ報告も一読ください。

### 頂いた募金は次のように用いさせていただきます

- ①ウクライナ国境検問所(メディカ) 近辺および一次避難所(プシェミシル、コルチョバ等)での難民に対する活動支援
- ②ルブリン市でKFHI(韓国飢餓対策機構)と協力し開設した二次避難所の運営と活動支援
- ③ジェシエフ市にあるGEMの倉庫への日本からの物資輸送(パンの缶詰、医療品等)に協力、またポーランドで食料や日用品を調達し、ウクライナ国内への持込を支援
- ④戦闘が終了後、ウクライナ国内の復興支援
- ⑤その他、状況の変化で緊急的に必要とされる支援

Okuda DESIGN PROJECT 施工例  
デザイナーズアパートメント

Okuda DESIGN PROJECT

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—

インターネットでお部屋探し。  
[www.okuda-re.co.jp](http://www.okuda-re.co.jp)

代表取締役社長 奥田 英男  
〒197-0003 東京都福生市熊川 447-9

042(552)0102(代)

4月16日にポーランドに入り緊急支援に加わったハンガーゼロ浅野陽子スタッフからの報告です。



**建**物に入りきれないほどの人が集まっている「ワルシャワ バプテスト教会」を4月17日に訪れました。ロシアのクリミア侵攻の時の避難民で、5年前からこの教会のウクライナ人礼拝を行っているミーシャ牧師にお話を伺いました。



### 多岐にわたる教会の支援

「ロシアの侵攻前は、教会に集うウクライナ人は250人ほどだったが、いまでは600人以上、正確な数はもはや把握できないほどです。教会には難民の方々が持ち帰れるように物資部屋がつけられて、衣服、オムツ、トイレトーパー、ハブラシ、食料品などが置かれています。侵攻が始まっ



たのが2月24日で、みんな冬服で逃げてきたので、春物の衣類を大量に購入する資金が必要です。教会ではワルシャワの避難民の方々への支援と共に、ウクライナ国内に食料、飲料水、医薬品などの物資を運んで希望する方々を脱出させる手助けをしています。ここで必要とされることは想像を超える大きさで、どう持続させていくかが目下の課題です。」

ポーランド政府がウクライナ避難民に対して社会保障番号を発行しており、それを取得すると公共サービスを利用できるようになるため、その取得の手助けや長期的な住居の確保など教会の支援は多岐にわたっています。今、ワルシャワの5人に1人がウクライナ人で、いま最大の課題は一気に増えた人たちにどうやって仕事を見つけるかということのようでした。

### 圧倒的に不足している心のケア

「物資支援は引き続き必要ですが、同時に心のケアが圧倒的に不足しています。ウクライナの避難民は女性が多く、安心して集まり心の内を話せる場所が必要なので、礼拝後に別の場所を用意して自由に話し、祈り合う時間を設けています。教会では心を許して話せるので、その必要に応えるためトラウマ カウンセリングのトレーニングの準備を進めているところです。」



トレーニングの準備のために教会を訪れていた米国人宣教師（ウクライナに長くいて言葉が通じる）と話すウクライナの方々は、自分の体験や悩みを涙ながらに打ち明けていました。

### 全てを失う人生二度目の体験で落胆

お話を伺うことができたドネツク出身の女性は、ロシアのクリミア侵攻の時、キーウに避難して生活を再建し、イルピンに家を建てて入居した矢先に今回の侵攻が起これ、一生懸命働いてやっと建てた家が全壊した、と涙ながらに話しておられました。また人生に二度もすべてを失う体験をし、50歳過ぎて言葉も通じない国でどうやって働き生きていけばいいのかと途方に暮れていました。避難している人はみんな残っている家族や友人のことを心配すると同時に、自分が逃げた後ろめたさに苛まれています。

もう一人のオデーサ出身の若い女性は、元は幼稚園の先生をしていたが、今はウエイトレスとして働くしかないと悲しそうに話していました。

ハンガーゼロは、同バプテスト教会とも協力してウクライナ難民の支援を進めていたいと考えています。下記のご案内から、引き続き募金にご協力をお願いいたします。

### 【ウクライナ緊急支援募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類

①郵便振替 00170-9-68590 一般財団

法人日本国際飢餓対策機構 「ウクライナ緊急支援」と明記

②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用できます。



家族の  
Story  
ストーリー

エスメラルダさんは9歳です。両親と2人の姉妹と一緒に暮らしています。家族は、パパイヤ、レモン、サツマイモ、ジャガイモなどの収穫物で生活しています。



FH= 国際飢餓対策機構

■ ボリビア／エスメラルダ・チュイ・ソラさんの家族

## 彼女の笑顔がクラスメイトにも好影響

### FHが介入するまでの暮らし

エスメラルダさんの父親は、「以前はもっと単調な生活で、衛生面などの生活習慣も改善されていませんでした。物質的にも精神的にも多くのものが不足していました」と言い、エスメラルダさんは、「サポートチャイルドになる前は、両親から勉強のサポートがなかったし、学用品もあまり買ってもらえなくて悲しかった」と言っていました。

### からだと共に心もサポート

FHボリビアのスタッフは、エスメラルダさんの家族を訪問して野菜の種と鶏を支給し、家庭菜園の取り組み方について伝えました。そして家族がそれを実施できるように手助けをしたので、家族は野菜を食べることができるようになり、また鶏の卵も摂取できました。FHボリビアのスタッフは聖書の言葉で家族を励まして、精神的なサポートも行いました。

### 家族の変化

エスメラルダさんは、サポートチャイルドになってとても幸せそうで明るくなりました。学用品や衛生キットなどの支援を受けていますし、食生活も改善されています。彼女の笑顔はクラスメイトにも良い影響を及ぼしています。また彼女は勉強にも熱心に取り組み、態度もよく、成績も優れています。

姉のヘレンさんは、妹が幸せそうにしている様子を見て安心しています。ヘレンさんもまたクラスで



エスメラルダさん（中央）の先生、クラスメート

一番になろうと努力をしています。

学校の先生は「エスメラルダは何事にも非常に熱心で、クラスメイトにもいい影響を与えるようになりました。明るくて良い雰囲気を持っています」と言っています。また同級生のケリーさんは、「彼女はとても陽気なので、私は彼女と一緒に宿題をするのが好き」と話してくれました。

FHボリビアのスタッフは、エスメラルダさんの明るい雰囲気が周りに多くの影響を与えている事に驚くと同時に、彼女の家族の支援に携われたことを感謝しています。



### 小西駐在員はボリビアに戻りました

昨秋に一時帰国していました小西小百合スタッフは、3月下旬に再びボリビアに戻り、国際飢餓対策機構ボリビアでの活動を再開しました。現地での様子は、本紙での連載などで報告させていただきます。

## 私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。

Health & Natural Beauty  
**ロングライフグループ** Resort & Longlife 1986 **0120-550-294**  
大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階  
 ロングライフグループ拠点: 北海道 / 埼玉 / 東京 / 神奈川 / 千葉 / 静岡 / 愛知 / 大阪 / 兵庫 / 京都 / 大分 / 沖縄 / 中国 (青島) / 韓国 / インドネシア (ジャカルタ)

受付時間  
9:00~18:00  
年中無休



ロングライフタウン寝屋川公園 フィレンツェの丘



⑥駒谷氏 (キリンビバレッジ) ⑥清水部長、川田氏

コシイプレザービングさん (大阪市住之江区)は、本紙2021年8月号で紹介させていただいた越井木材工業さんの子会社です。木材としてほとんど活用されていない間伐材 (樹木育成のために間引かれる木)を独自の薬剤加工により 100年もの耐久材に商品化。住宅の長寿命化や点検、保守サービス、道路や河川整備などへの利用促進を通じて事業を拡大中です。木材の「地産地消」を掲げる同社はさらに進めて持続可能な社会の実現のために、ハンガーゼロ自販機を設置してSDGsに取り組みでおられます。同社総務部清水岳祥部長にお話を伺いました。

**(株)コシイプレザービングの取り組み**

**自販機なら社員全員でSDGsの目標に参加できる**

持続可能な開発目標



**Q SDGsと自販機設置の経緯について**

もともと越井社長から「やるならコシイグループとして17の開発目標全てにかかわるべきではないか」という方向性が出されていました。その中で営業部門の入社3年目の社員から、SDGsをもっと社会に目にみえる形にしていけば会社の強みにもなるのでは、との提案が出され社員間でも



チャレンジしようという気運が生まれました。ちょうどその時期 (2019年)にキリンビバレッジさんから募金型自販機の提案があり、ハンガーゼロの活動を応援することで会社として貧困と飢餓の2つの開発目標に取り組もうということになりました。特に貧困と飢餓の目標は、社員全員が関わるべきことでもあるので、日常の中で誰も利用できる自販機のアイディアはとても素晴らしいと思いました。

**社員食堂に機関紙や募金感謝状を掲示**

**Q 自販機の説明はどのように**

ドリンク1本が10円の支援になることの告知はもとより、ハンガーゼロさんの機関紙や年2回送られてくる「自販機利用による募金の感謝状」をみんなが利用する社員食堂に掲示しています。募金実績としてはまだこれからのところではありますが、今年からハンガーゼロ自販機のみを集約したのでもう少し伸ばせるかなと期待しています。

**取引企業さんにも伝えて支援の輪を広げたい**

**Q SDGsに取り組んでみて**

当社は環境貢献事業という枠から、SDGsの取り組みの中で、ハンガーゼロさんへの協力を通じて、社会貢献にも関わられるようになりました。当社では、毎年全国のお取引企業様に集まってもらって勉強会を開催しているのですが、SDGsへの取り組みとしてこのハンガーゼロの自販機のことも紹介させていただきたいと考えています。当社の取引業者さんは環境問題やSDGsへの関心があるところが多いので、関心を持っていただけるのではないかと思います。



加工木材を使ったモデルハウス

**● 最後に…**

越井社長もすでに表明していますが、ウクライナ難民の人々を受け入れる環境が整えば、コシイグループ全体として取り組んでいきます。住宅の手当てや会社の製造部門などで働いて頂くことも検討しています。



オープンスペースで明るい雰囲気同社オフィス



自販機設置のご相談は、大阪事務所まで。JIFHのホームページに資料を掲載。右のQRコードからご覧になれます

**備蓄をしながら社会貢献**



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました!



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさと夢をお届けします。

**株式会社パン・アキモト**

パンの缶詰 since 1995

〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋295-4  
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

## 「自分の終活をウクライナ支援に」賛同を集めて募金目標200万円達成!!

3月20日~4月3日の15日間、愛知県瀬戸市のギャラリーNaniを会場に「ウクライナ緊急支援チャリティセール」が行われました。

名古屋学院大学教授をこの3月で退任された増田喜治氏(写真⑥)が、長年収集してこられた珈琲ミルや蓄音器などを提供し、200万円の目標を掲げてこのチャリティセールを開催してくださいました。この企画は「自分の終活をチャリティにします!」という増田さんの強い思いで実現しました。

会期中は元教え子や友人多数が足を運んでくださり、会場の「せと銀座商店街」や近隣のお店からの商品のご提供も得て、最終日の4月3日に目標額の200万円を達成。全額をウクライナ支援に寄付してくださいました。力強い応援を感謝いたします。  
※ハンガーゼロのYouTubeチャンネルに関連動画があります。



タイから

### グリーティングカード

いろいろな用途に使えるさわやかなイメージのカードです。ブナなど、現地に自生する木の葉脈で作られています。手漉紙の台紙、封筒つき。色やデザインはお任せ。

1枚500円(送料込)です。

2枚だと800円(同)です。

代金は銀行振り込みか郵便振替による後払いです。

お申し込み:

(株)キングダムビジネス  
スマートフォンは右のQRコードから



電話注文: 06-6755-4877



### 森親善大使が支援コンサート

モリユリ・ミュージック・ミニストリーズ主催「ウクライナ避難民支援コンサート」が5月14日(土)午後2時半、大阪クリスチャンセンター OCC ホールで開催されます。親善大使の森祐理さんのコンサートとハンガーゼロの現地報告があります。入場無料。席上募金があります。なお当日同時刻のみ YouTube で配信も行われます。お近くの方はぜひご参加ください。詳しくは同事務所 HP: <https://www.moriyuri.com> でご確認ください。

## サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL382号

<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )円 □(10,000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月( )円 □(10,500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在...5160口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロで検索!

Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト  
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構  
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1  
(広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155  
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517号室  
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782  
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル 6F  
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132  
沖縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メソソク米 202号  
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216  
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター